

評価計画		自己評価		次年度への改善策	学校関係者評価			
重点目標	具体的目標	具体的取組事項	評価指標		評価	取り組み状況と課題	評価	意見
多様な人と関わる場の設定	地域と密着した魅力ある教育活動の推進	高校魅力化コンソーシアム構築、まちごとキャンパス構想策定、地域との協働による教育活動（まちキャン、ふるさと学、ユネスコスクール事業、インターンシップ）、地域・保護者への情報提供、保護者との連携、地域活動への参加支援	評価アンケート	B	○教職員と魅力化コーディネーターの役割分担が明確になった。また「かわもとあそ1 a b（ラボ）」のように新たな地域連携も生まれ、生徒の学びの場が増えた。 ・コロナ禍の中、地域を場とする教育活動には大きな制限があった。	▷新しい「まちごとキャンパス構想」も完成間近であり、高校魅力化コンソーシアムの設立を機に、学校と地域のつながりを強めたい。 ▷コロナ禍における、地域とのつながりを持った学習活動のあり方を再整理し、新しい地域との協働を模索したい。	C	・部活動の意義・目的である人間形成を考えた評価をすべきである。  ・生徒と地域のつながりは進展しているが、教職員と地域のつながりがまだまだではないか。  ・地域の中学生の受け入れ先の高校としての役割を果たしてもらいたい。  ・出願数が減少したのは残念であるが、多様な人とかかわる場の設定という目標に関しては一定の評価ができる。
	学習と両立した部活動や体験活動の充実	生徒会主体の学園祭・球技大会運営、委員会活動・部活動充実、部活動顧問・教科担当・担任の連携による生徒理解、ボランティア活動・高校生マイプロジェクト参加支援	評価アンケート 部活動加入率、大会成績	B	○コロナ禍で多くの制限がある中、生徒会執行部が中心となって行事の運営に努めた。 ・部活動大会をはじめ様々な取り組みの中止や縮小が子どもたちの活躍の場を奪っている。	▷学校行事の良さを失わないことと十分な感染防止対策とのバランスに配慮した計画を作成する。		
	多様な地域からの生徒受け入れによる学校の活性化	後援会と連携した生徒募集活動、広報活動（学校案内・DVD作成、オープンスクール、中学校訪問、中高連絡会、学校見学者対応）、県内生徒確保に向けた取り組み、寮対応（環境整備、罹病時対応、まち親さんとの交流）	評価アンケート	D	○コロナ禍の中、オンライン説明会、オープンスクールなどにより、県外生徒募集には一定の成果があった。 ○新しい女子寮の運営は順調である。 ・県内中学校への生徒募集は成果が出ず、2年連続の大きな定員割れを招いた。 ・感染防止に関する寮運営は大きな負担である。	▷引き続き、後援会と連携しながら募集活動に積極的でありたいが、特に県内は部活動顧問を中心に早めの生徒募集活動に取り組みたい。一方で、在学生の学習への取り組み、生活態度など今年度露呈した課題を克服し、生徒にとって居心地の良い学校を目指すことが、本校の最大の魅力発信となる。		
豊かな人間性と社会性の育成	集団生活を通じた規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立	授業規律（授業終始の礼法）の共通理解と徹底、生活指導（挨拶・身だしなみ・交通マナー、ふるまいや言葉遣い）に関する共通認識・共通指導、美化意識向上（清掃指導、保健委員会活動）、寮生活指導（生活時間・学習時間）	評価アンケート 出席率、皆勤率	C	○一部学級で見られた落ち着かない雰囲気は改善されつつある。 ・授業中など一部の生徒に見られる規律の守れない行動に対する指導に苦慮する場面があった。	▷全体への呼びかけと個別指導の徹底、校内巡視、声かけ等の継続で規律ある学校生活を維持していきたい。 ▷寮生の生活支援・指導にあたる教職員の体制を厚くし、寮内の学習態勢をより強化したい。	C	・規律ある学習体制の確立を望む。  ・生徒アンケート、保護者アンケートの結果と教職員による内部評価に差がみられる部分がある。その差を精査して次年度への取り組みに反映させてもらいたい。
	互いの人権を尊重する意識と態度の育成	学校行事・学級活動を通じた仲間づくり、人権同和教育HR、人権教育講演会、教職員研修による生徒理解、学年集会・生徒集会（いじめ防止、命の大切さ指導）	評価アンケート 人権意識調査	C	○学年集会等での全体指導に一定の成果があった。 ・人間関係づくり、仲間づくりを苦手とする生徒が一定数おり、特にSNS上のトラブルが発生した。	▷個別面談等による生徒の抱える課題の早期発見と粘り強く寄り添う姿勢が必要である。 ▷自己理解他者理解を進めるホームルーム活動や年度初めの情報モラル講座などに取り組みたい。		
	適切な指導・支援につながる校内体制の構築	就学支援制度等の情報提供と支援、生徒サポート委員会・教職員研修による情報共有、感染症早期対応、健康診断・健康観察、保健室来室者対応、学校医・SCとの連携、生徒アンケート（QU、学校生活）、学年通信発行	評価アンケート	B	○教職員全体の情報共有に努め、課題を抱える生徒に複眼的組織的に対処できた。 ○課題を抱える生徒への対応において保護者や関係機関と連携を持つことができた。	▷引き続き生徒の健康状態の把握と感染症予防対策をすすめていく。特に生徒の体調チェックを習慣化させる方策（健康観察シート）を徹底させる。 ▷保護者、関連機関との連携を継続する。		
自ら未来を切り拓く力の育成	対話的・主体的で深い学びを通じた学力の育成	家庭学習強化、授業評価アンケート、「生徒が育つ授業」の実践、ユニバーサルデザインの視点、ICT機器活用、授業参観・授業研修、学習時間調査、図書館利用の充実	評価アンケート 学習時間調査	D	○ICT機器を効果的に活用できる場面が増えた。 ○朝読書の推進で図書貸出数が増加した。またコロナ関連予算により蔵書が充実した。 ・家庭学習の少なさが課題としてあげられる。	▷各教科の授業と評価及び提示課題の内容の再検討、学習ガイダンスの実施により学習支援を強化する。 ▷授業評価アンケート、授業互見や研究授業等の授業改善の取り組みを継続し、授業力向上をはかる。 ▷ユニバーサルデザインの視点を持った授業、ICT機器を活用した授業を推進する。	C	・教職員の指導力向上と学習環境の整備によって、しっかりとした学習習慣の確立につなげてもらいたい。
	自己実現に向けて自ら考え行動する力の育成	大学・企業訪問、進路集会、進路ガイダンス・講演会、先輩講話、面接・小論文・プレゼン指導、進路希望調査、補習・模試、公務員試験対策、進学ゼミ、成績上位層・遅進者対策	評価アンケート	C	○オンライン視聴を取り入れた進路ガイダンスや進路だよりの発行など新しい取り組みに成果があった。 ・進学ゼミ補習が継続して実施できたのは良かったが、参加生徒の学力実態と進路目標にはまだ開きが大きい。	▷保護者向けのオンライン視聴、動画配信による情報発信の充実をはかる。 ▷1、2年次の面接・小論文指導の講座・教材を強化する。 ▷進学ゼミの募集方法と活動形態及び3年平日補習のあり方を検討・改善する。		・特に入学時より学習に対する意識付けを持てる対策を望む。  ・授業以外の学習時間が少ない。改善が必要である。
	一人一人の将来を見通したキャリア教育の推進	課題解決型学習の充実、3年間を見通したキャリア教育計画、総合的な探究（学習）の時間における進路学習、校内進路検討会、模試分析、業者説明会による情報収集、コース選択支援（説明会・個別面談）	評価アンケート	C	○時期や形態を変更しつつ、概ね予定していた進路指導計画を実行できた。 ・校内進路検討会が教職員の指導力向上につながる研修の場であるとよい。	▷引き続き感染防止対策をふまえた計画を立案する。 ▷教職員の進路指導力向上の手立てとして研修の場を増やしたい。		